

#### (f) 海ガモ類

ウミアイサ、カワアイサ、ミコアイサ、キンクロハジロ、スズガモ、ホオジロガモ、ホシハジロ、クロガモ、コオリガモの9種を海ガモ類として、まとめて図 2-1-2-39～図 2-1-2-41 に示す。

#### ●過去 10 年間の月別個体数とその変化

海ガモ類の月別個体数（1 調査日当たり）を比べると、主に渡来時の 11 月にピークが見られる淡水ガモ類と異なり、2 月～3 月にかけてピーク（10 年間中央値で 19～21 羽）が見られる。また、2010 年 4 月は、過去 10 年間（2004 年 9 月～2014 年 8 月）で最も多い約 250 羽が確認された。

#### ●過去 10 年間の八郎潟と周辺域における確認状況

海ガモ類は渡来時の 10 月～11 月、主に大谷地や干拓地北西部の B 地区で見られ、12 月～1 月も八竜など、干拓地外の北部で 10 数羽が確認される。渡去時の 3 月になると干拓地北西部で 100 羽程度、調整池の東側（一日市）で約 500 羽が記録される。

#### ●最近 1 シーズンの八郎潟と周辺域における確認状況

2013 年 9 月／2014 年 8 月シーズンは 10 月～11 月、芦崎、西区、干拓地内 A36 などに数羽～14 羽が渡来した。厳冬期の 12 月～2 月は、数羽～26 羽が西区、干拓地内 A36、NHK 向い（周辺域南西部）を利用した。渡去前の 3 月は、西区周辺や湖東の一部（飯塚）数羽～30 羽が見られたほか、防潮水門に 750 羽集中した（資料 4）。

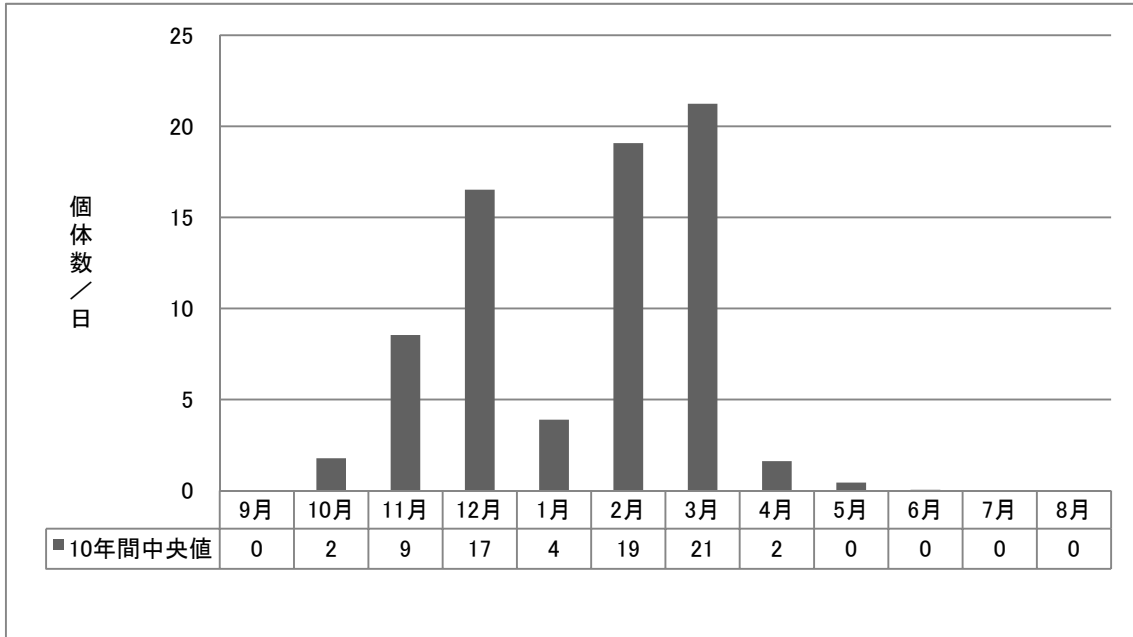


図 2-1-2-39 海ガモ類の月別個体数／日の 10 年間中央値(2004 年 9 月～2014 年 8 月)

(注)個体数／日： 1 調査日当たりの個体数

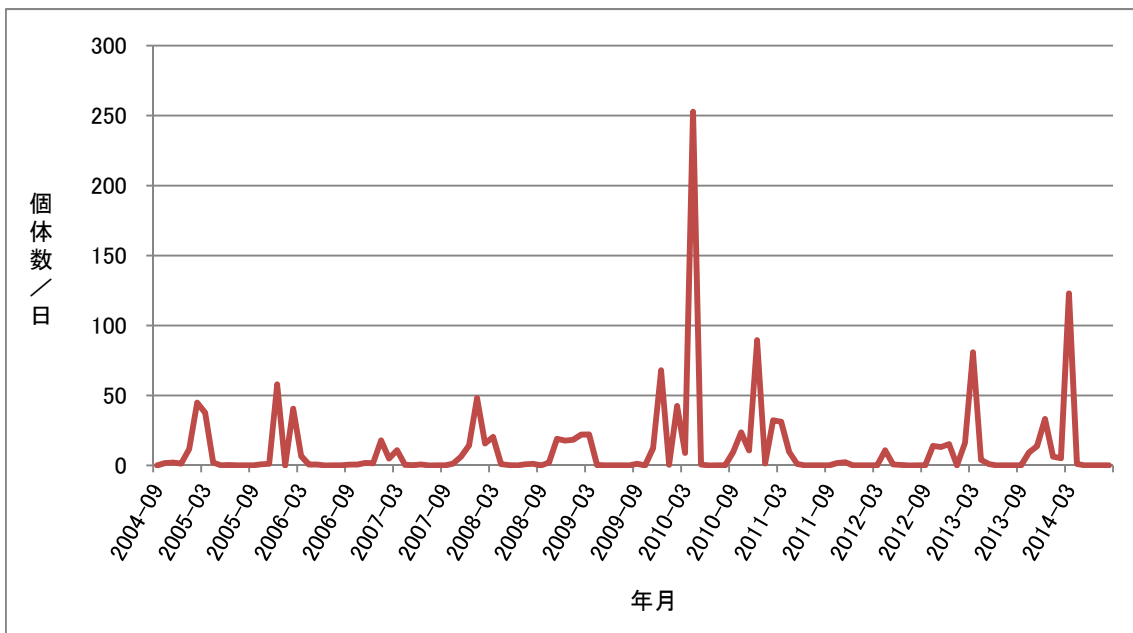


図 2-1-2-40 海ガモ類の月別個体数／日の推移(2004 年 9 月～2014 年 8 月)

(注)個体数／日： 1 調査日当たりの平均個体数



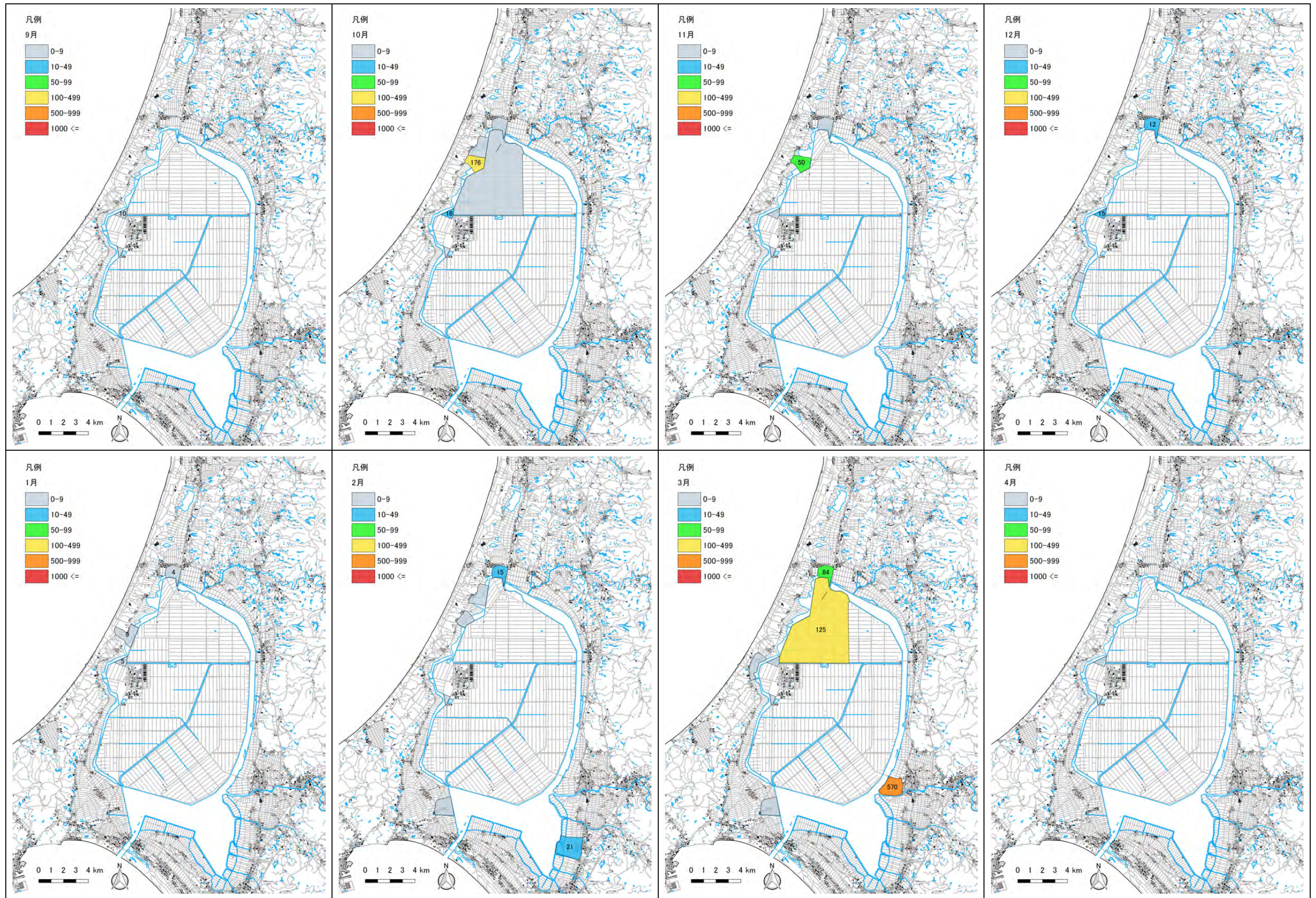


図 2-1-2-41 八郎潟および周辺域における海ガモ類の月別の日個体数(2004年8月~2014年8月) (注)日個体数=調査区別の10年間合計個体数÷調査区別の調査日数



(3) 月別個体数の確認状況のまとめ(2004～2014 年)

八郎潟およびその周辺域における過去 10 年間(2004 年 9 月～2014 年 8 月)のガン類、ハクチョウ類およびカモ類の月別の個体数(1 調査日当たり)をまとめた(表 2-1-3-1)。

マガン、シジュウカラガンは 3 月、ヒシクイは 2 月、ハクガンは 12 月に最も多く見られる。オオハクチョウは 1 月、コハクチョウは 12 月が最も多く、次いで 2 月～3 月に多い。一方、カモ類は 11 月がピークとなる。

表 2-1-3-1 ガン類・ハクチョウ類およびカモ類の月別の日個体数中央値  
(2004 年 9 月～2014 年 8 月)

	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
マガン	0.0	1519.5	12025.4	4434.5	1362.4	32374.1	124971.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ヒシクイ	0.0	10.6	1134.1	7495.8	7570.9	9845.2	4467.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ハクガン	0.0	0.0	4.6	68.1	44.8	14.7	22.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
シジュウカラガン	0.0	0.0	15.2	13.4	5.0	7.4	94.5	0.0	0.0	0.0	0.0	
ガン類	0.0	506.5	3010.4	5571.4	4322.6	10481.6	48785.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
オオハクチョウ	0.0	0.4	8.0	47.9	75.5	74.5	27.9	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0
コハクチョウ	0.0	44.6	233.3	356.3	86.9	32.4	22.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ハクチョウ類	0.0	20.3	157.2	455.7	144.1	105.7	60.5	0.1	0.4	0.0	0.0	0.0
コガモ	28.2	549.8	3141.7	301.4	106.5	190.6	174.8	88.8	34.5	0.3	0.0	0.0
オナガガモ	2.3	38.2	70.8	8.0	0.1	1.1	3.7	1.2	0.1	0.0	0.0	0.0
マガモ	0.8	59.8	354.8	155.8	14.4	86.1	74.2	22.5	0.7	0.2	0.2	0.1
カルガモ	34.3	109.4	464.3	141.3	264.4	104.1	88.0	33.3	5.6	4.8	4.3	4.9
淡水ガモ類	67.8	901.3	4481.1	677.6	487.3	529.9	443.3	131.2	45.6	5.9	4.6	6.1
海ガモ類	0.0	1.8	8.5	16.5	3.9	19.1	21.2	1.6	0.4	0.0	0.0	0.0

(注)上表の値は、各月に確認された日個体数の過去 10 年間中央値

#### (4) 日最大確認個体数(2004～2014年)

八郎潟および周辺域におけるガンカモ類の渡来数を種および日別に集計し、各シーズン(9月から翌年8月までを1シーズンとした)における日最大確認個体数(日最大値)をシーズン別、種別に示した。また、最近5シーズン(2009年9月～2014年8月)の日最大確認個体数の平均値(以下、「日最大5シーズン平均値」と略す)を求め、ラムサール条約湿地選定基準6に用いられる「水鳥個体群の1%基準値(以下、「1%基準値」と略す)」および基準5の「2万羽以上の水鳥」と比較した(表2-1-4-1～表2-1-4-2および図2-1-4-1～図2-1-4-16)。なお、日最大値は1調査日に複数の地点または時間帯で記録された個体数を合算した数である。

##### ① ガン類・ハクチョウ類

マガン、ヒシクイ、ハクガン、シジュウカラガンおよびコハクチョウの日最大5シーズン平均値は、それぞれの種の1%基準値を大きく(1.5倍～数桁)上回っている。一方、オオハクチョウの日最大5シーズン平均値(513羽)は1%基準値(600羽)よりやや小さい値となった。

日最大値が記録される時期として、マガンは3月に記録されることが多く(10シーズン中8回は3月)、その他のガン・ハクチョウ類はシーズンによりややばらつきがあり、11月～3月のいずれかの月に最大値が記録されている。

過去10年間(2004年9月～2014年8月)の変化を見ると、2006年～2007年以降、ハクガンとシジュウカラガンの日最大値は増加傾向にある。一方、マガン、ヒシクイ、オオハクチョウ、コハクチョウは年により日最大値に変動はあるが、一定の傾向は見られなかった。

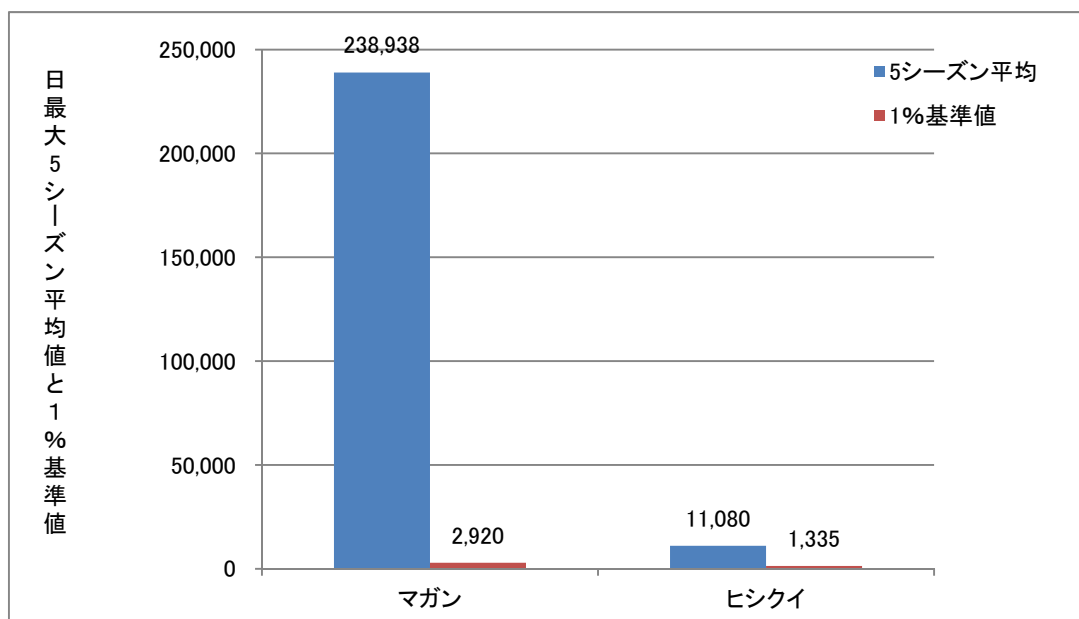


図2-1-4-1 マガン、ヒシクイにおける日最大5シーズン平均値と1%基準値

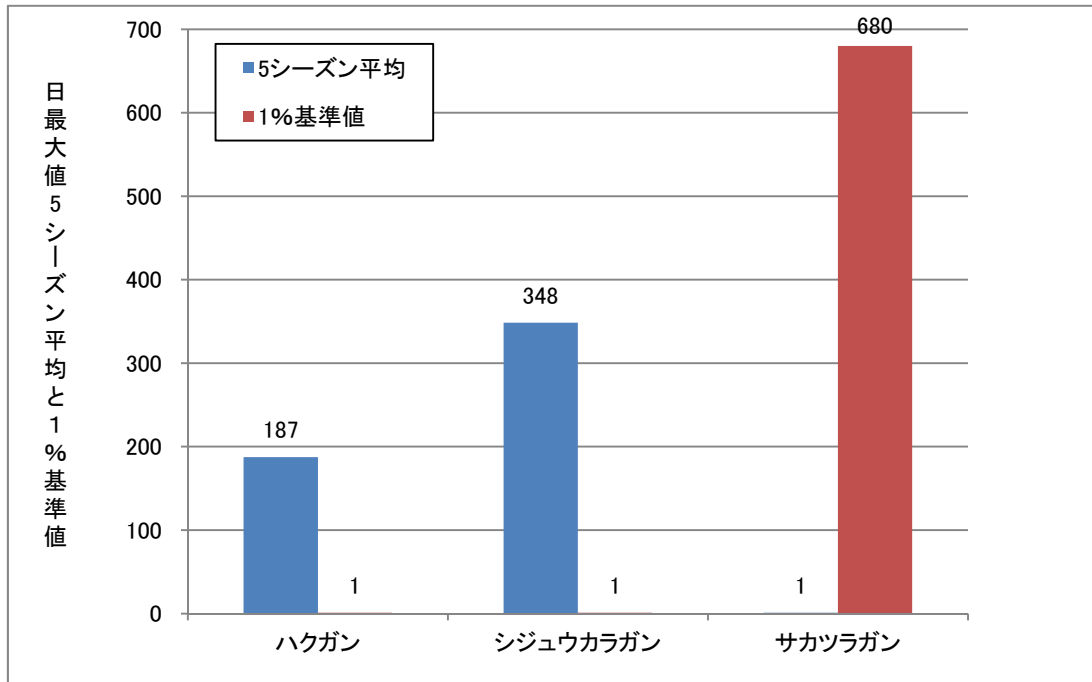


図 2-1-4-2 マガン、ヒシクイにおける日最大 5 シーズン平均値と 1%基準値

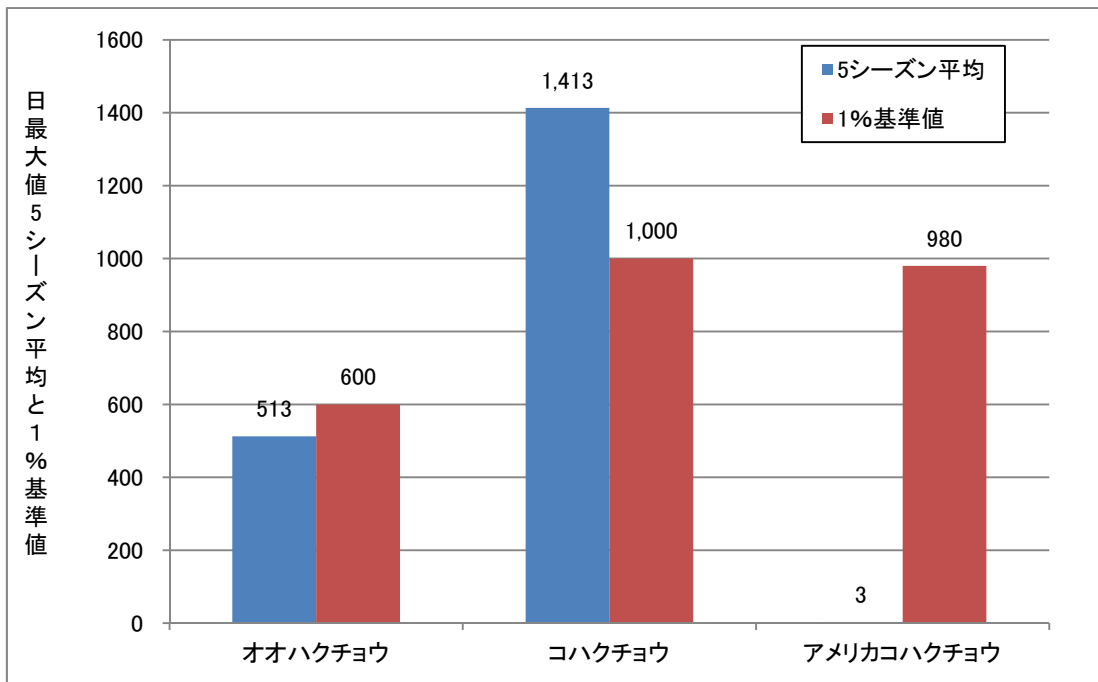


図 2-1-4-3 マガン、ヒシクイにおける日最大 5 シーズン平均値と 1%基準値

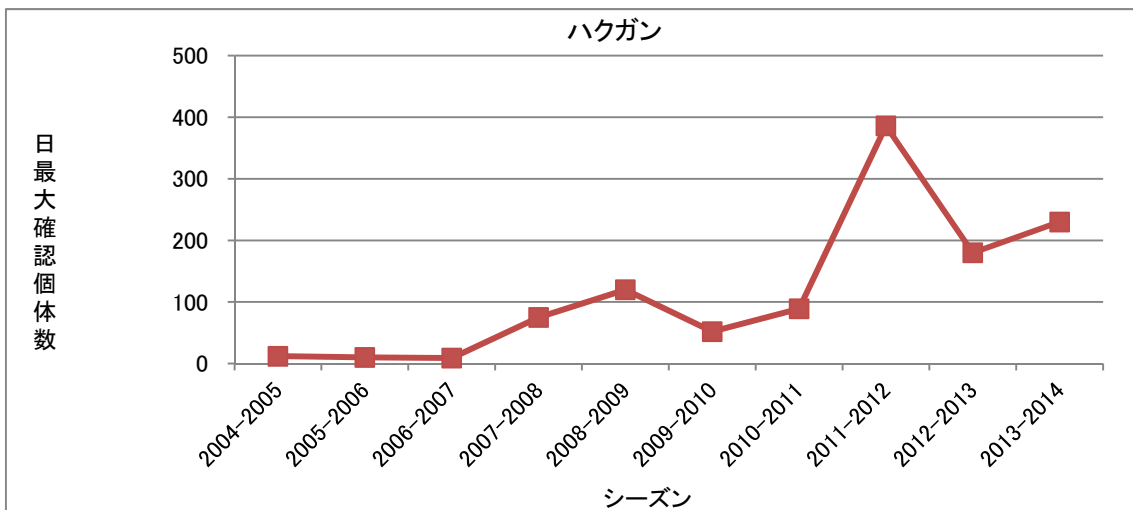
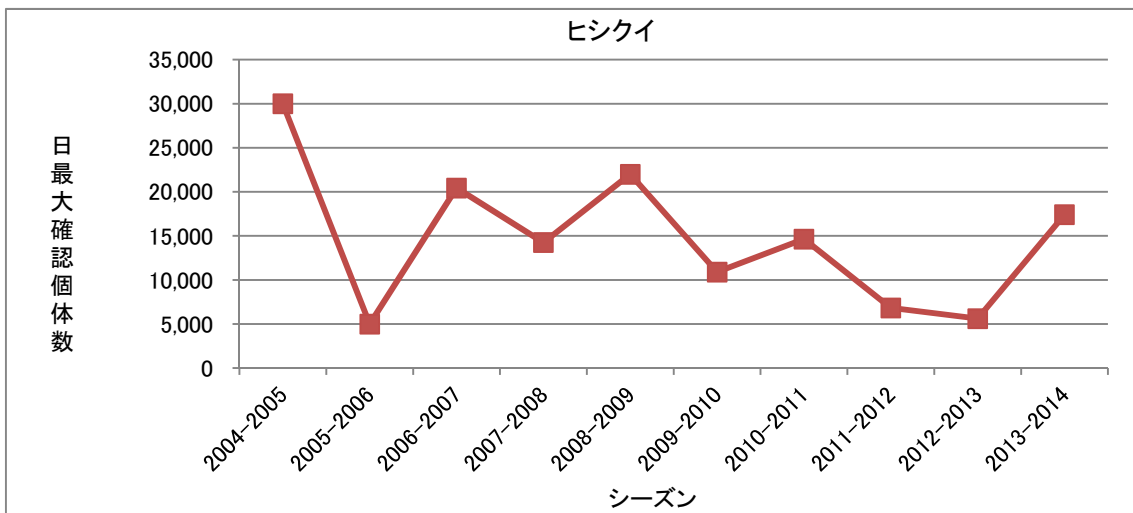
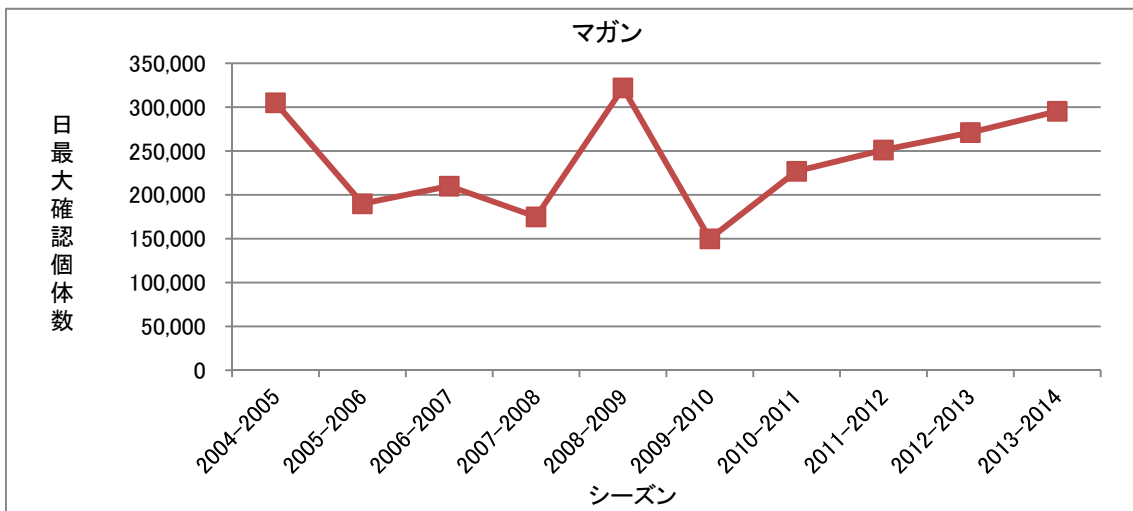


図 2-1-4-4 マガン、ヒシクイ、ハクガンの日最大確認個体数の経年変化(2004年9月～2014年8月)

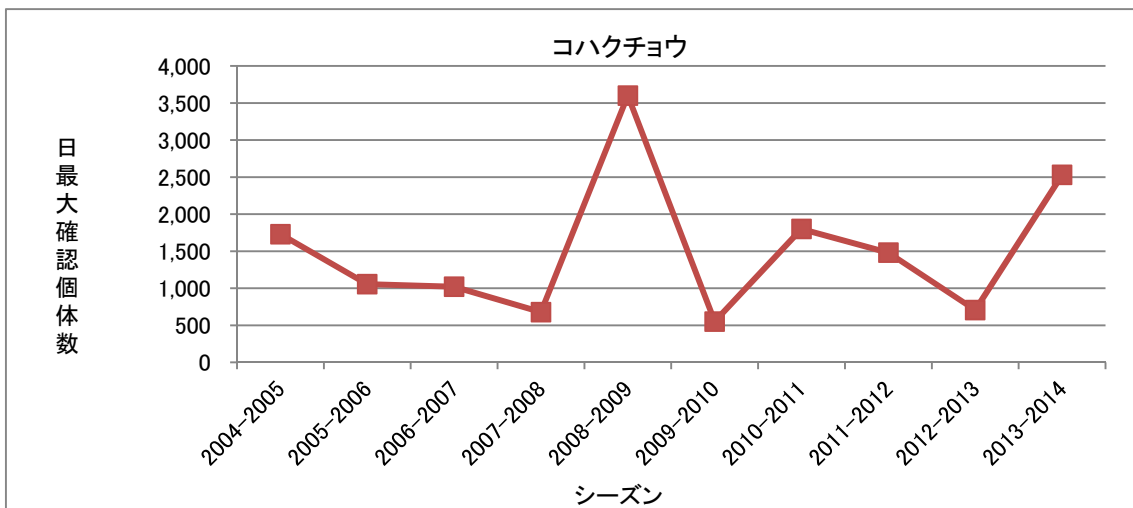
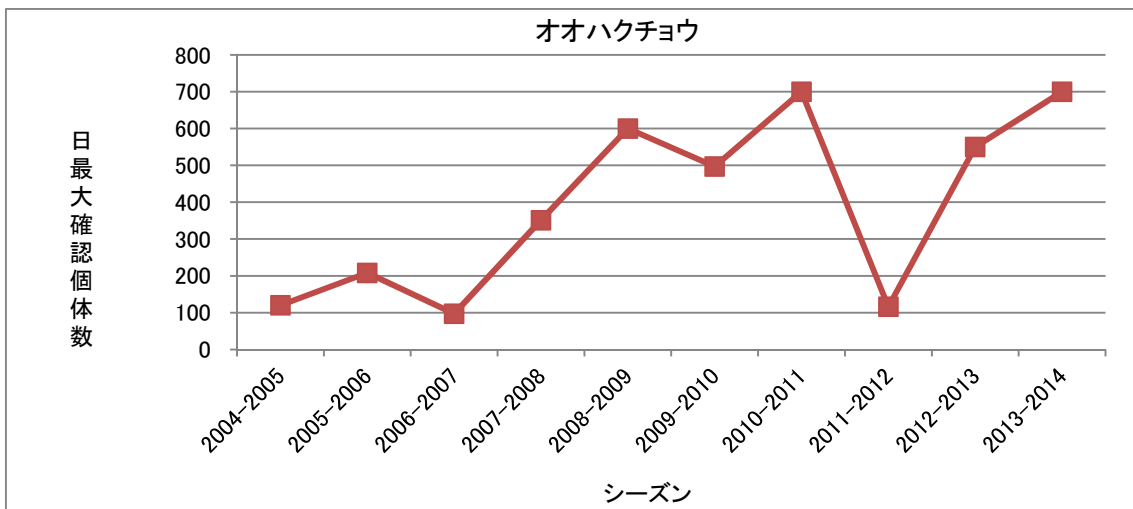
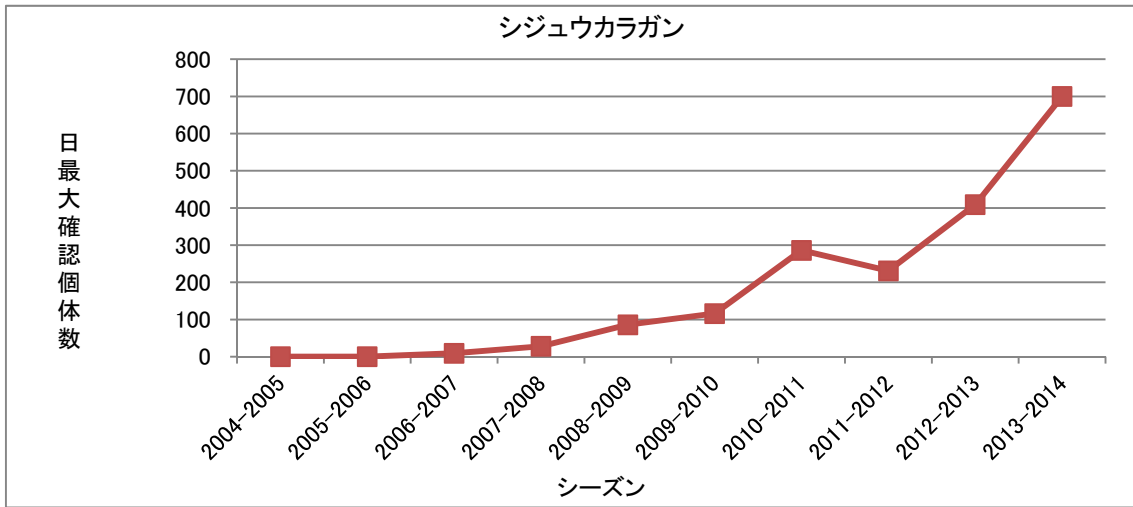


図 2-1-4-5 シジュウカラガン、オオハクチョウ、コハクチョウの日最大確認個体数の経年変化(2004年9月～2014年8月)



## ② 淡水ガモ類

淡水ガモ類のうち、マガモ、コガモ、オナガガモの3種については、日最大5シーズン平均値が1%基準値を上回っている。

日最大値が記録される時期として、個体数が多いマガモ、コガモ、カルガモ、オナガガモ、ヒドリガモでは、10月～5月のいずれかの月に最大値が記録されている。淡水ガモ類は、ガン類やハクチョウ類に比べて、最大値が記録される期間が長い。

過去10年間（2004年9月～2014年8月）の変化を見ると、マガモ、コガモ、オナガガモ、カルガモ、ハシビロガモ、ヨシガモの6種は、2010年／2011年シーズンに日最大値を記録した。また、淡水ガモ類では日最大値の経年的な増減傾向は見られない。

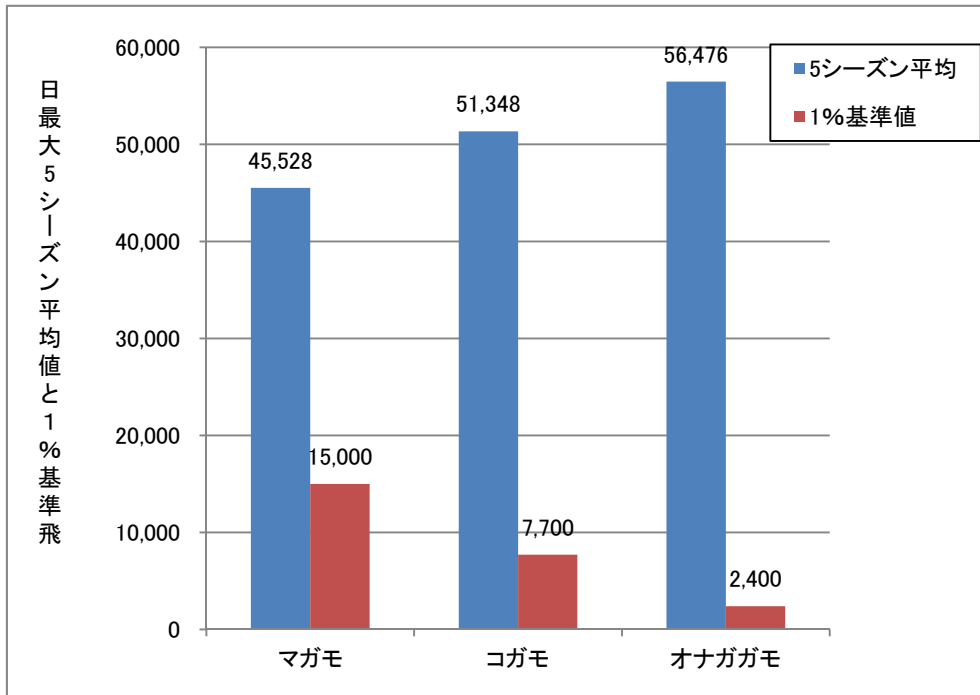


図 2-1-4-6 マガモ、コガモ、オナガガモにおける日最大 5 シーズン平均値と 1%基準値

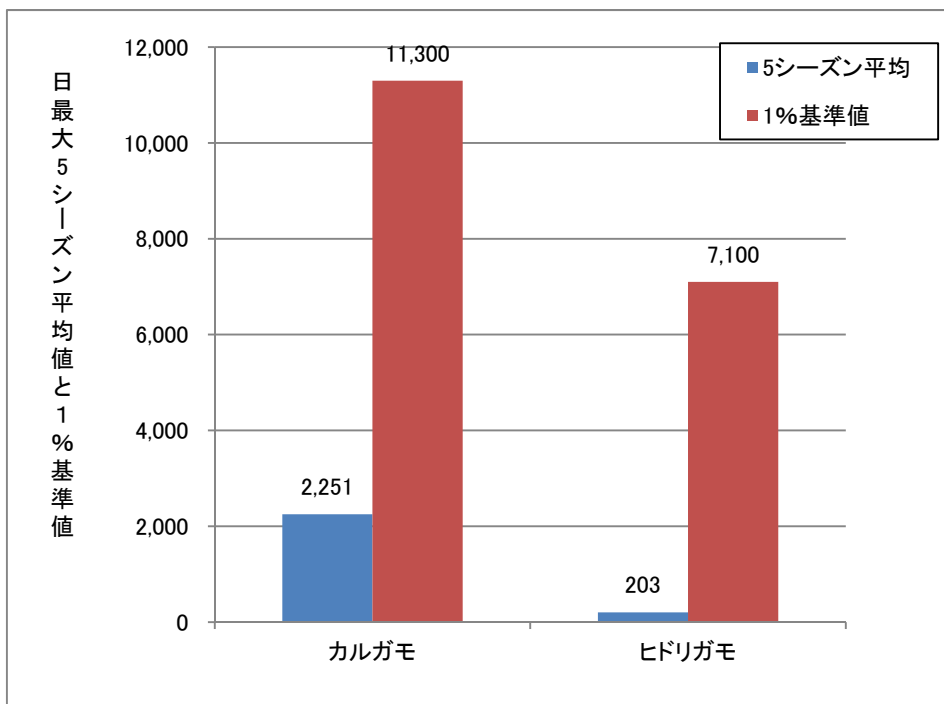


図 2-1-4-7 カルガモ、ヒドリガモにおける日最大 5 シーズン平均値と 1%基準値

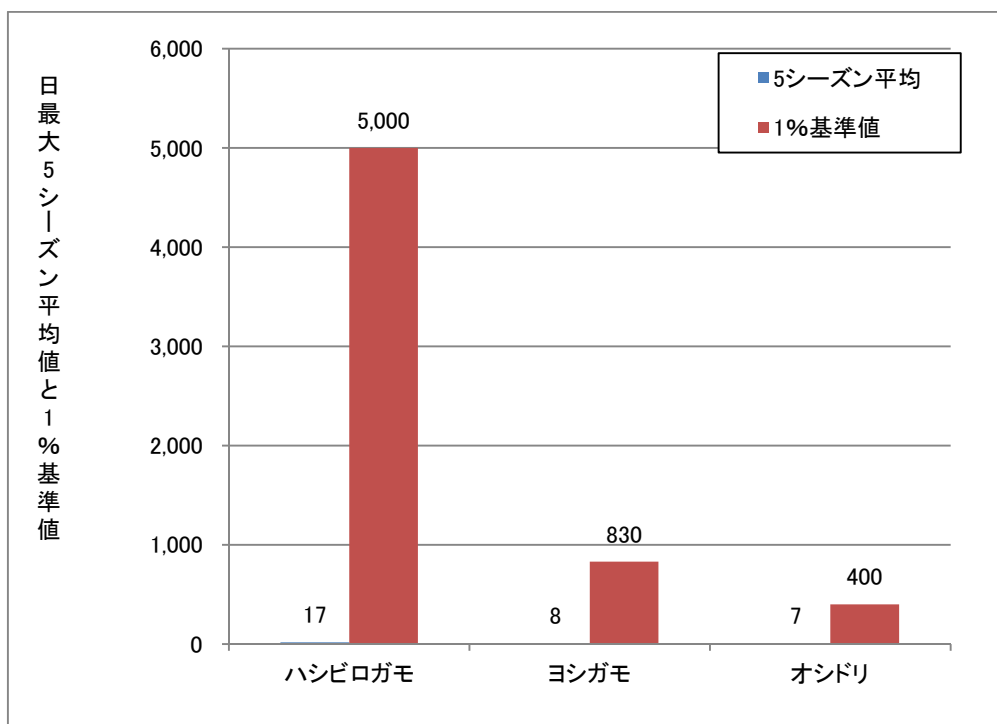


図 2-1-4-8 ハシビログモ、ヨシガモ、オシドリにおける日最大 5 シーズン平均値と 1%基準値

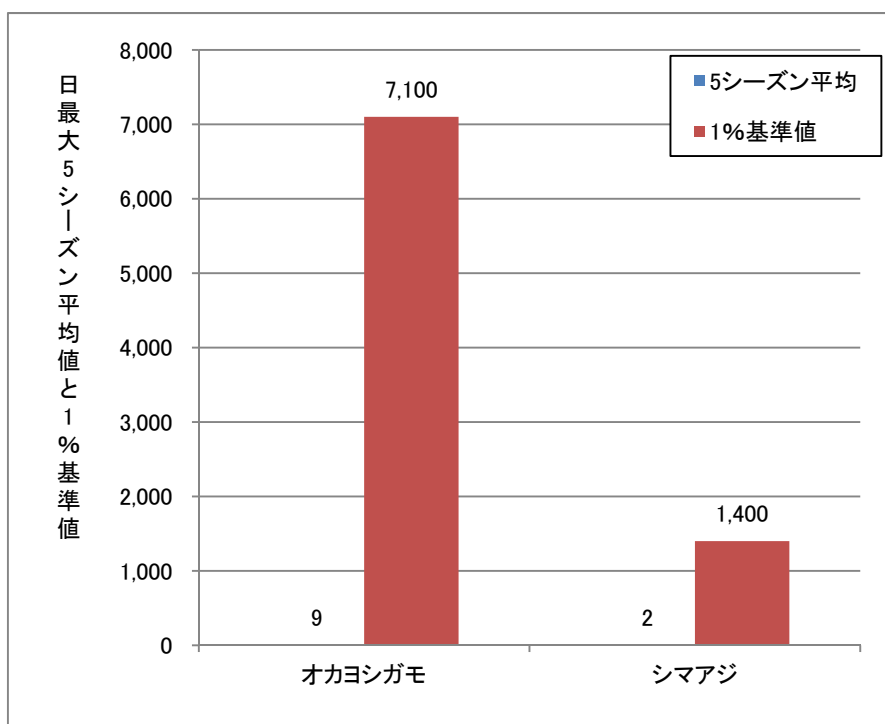


図 2-1-4-9 オカヨシガモ、シマアジにおける日最大 5 シーズン平均値と 1%基準値



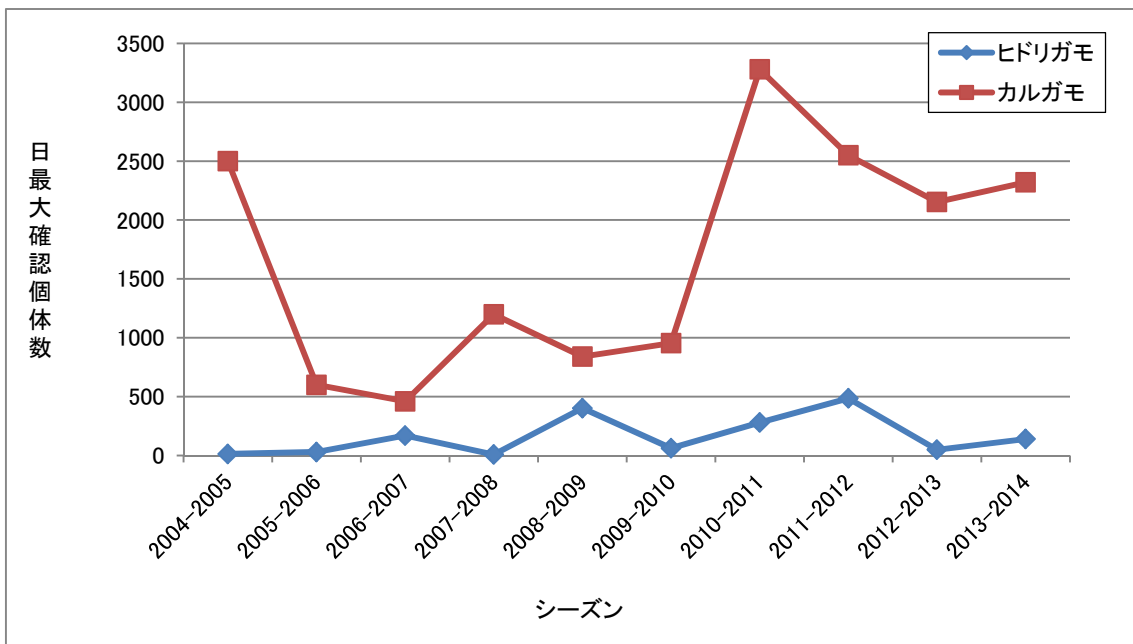
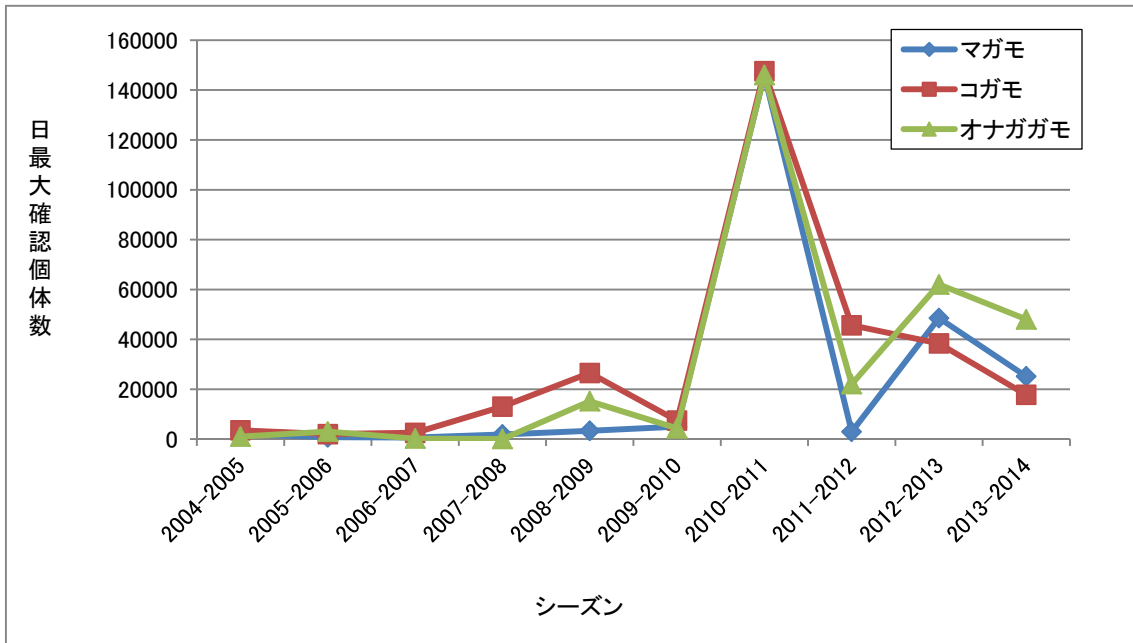


図 2-1-4-10 マガモ、コガモ、オナガガモ、ヒドリガモ、カルガモの日最大確認個体数の経年変化  
(2004年9月～2014年8月)

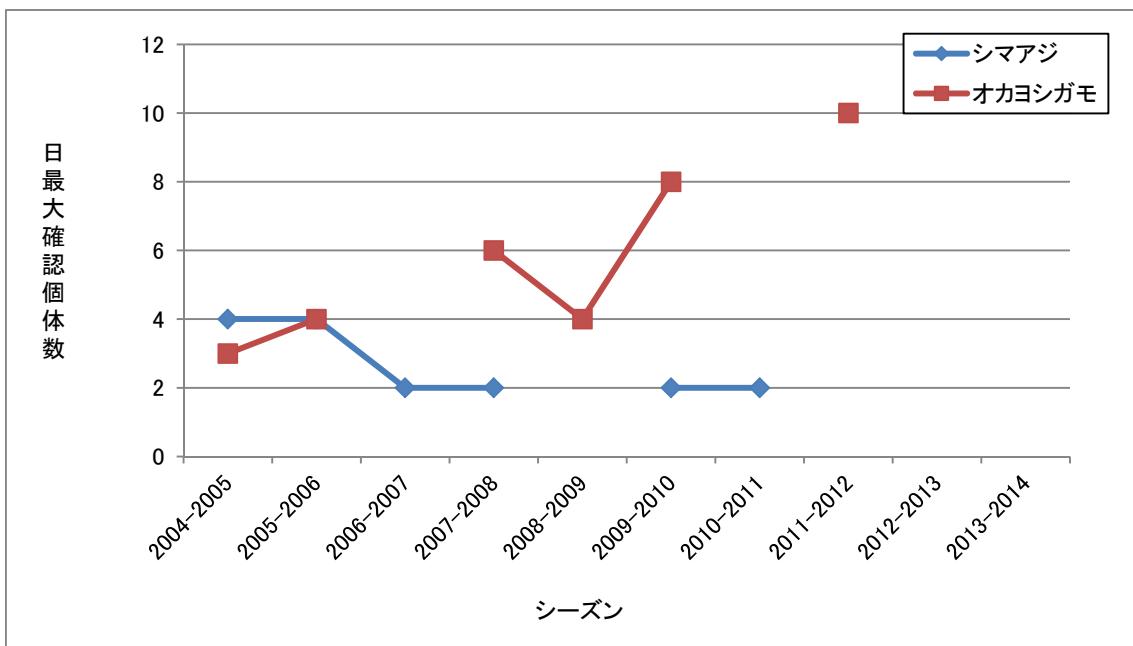
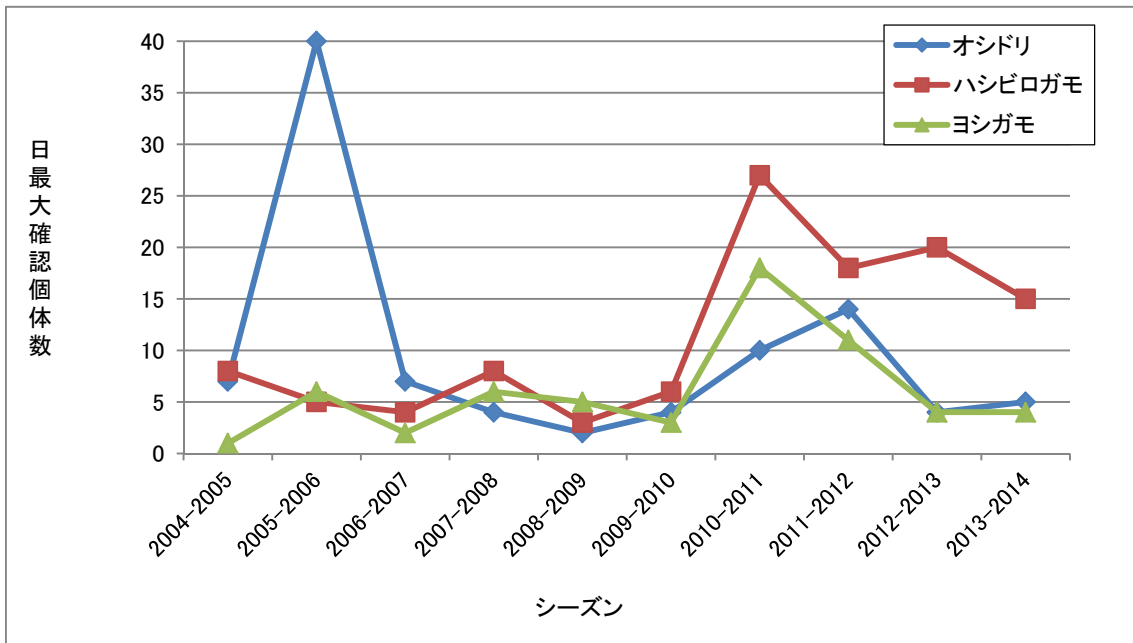


図 2-1-4-11 オシドリ、ハシビロガモ、ヨシガモ、シマアジ、オカヨシガモの日最大確認個体数の経年変化(2004年9月～2014年8月)

### ③ 海ガモ類

海ガモ類では、日最大 5 シーズン平均値が 1%基準値を上回っている種はなかった。1%基準値に近い最大値を記録した種として、カワアイサ（1%基準値 710、日最大 5 シーズン平均値 409）、ミコアイサ（1%基準値 250、日最大 5 シーズン平均値 202）の 2 種が挙げられる。

日最大値が記録される時期は、淡水ガモ類と同様、シーズンによってばらつきがあり、9月～4月のいずれかの月に最大値が記録されている。

過去 10 年間（2004 年 9 月～2014 年 8 月）の変化を見るとカワアイサ、スズガモは、2009 年／2010 年シーズン、キンクロハジロ、ホオジロガモ、ホシハジロは 2010 年／2011 年シーズン、スズガモは 2008 年／2009 年シーズン、ミコアイサは 2012 年／2013 年、ウミアイサは 2013 年／2014 年に、それぞれ日最大値を記録し、日最大値を記録したシーズンは種によりまちまちであった。また、海ガモ類も淡水ガモ類と同様、日最大値の経年的な増減傾向は見られない。

### ④ ガンカモ類全体

すべてのガンカモ類（種が特定されないものを含む）を総合した日最大 5 シーズン平均値は約 29.7 万羽で、基準 5 の「2 万羽以上の水鳥」を大きく上回っている。

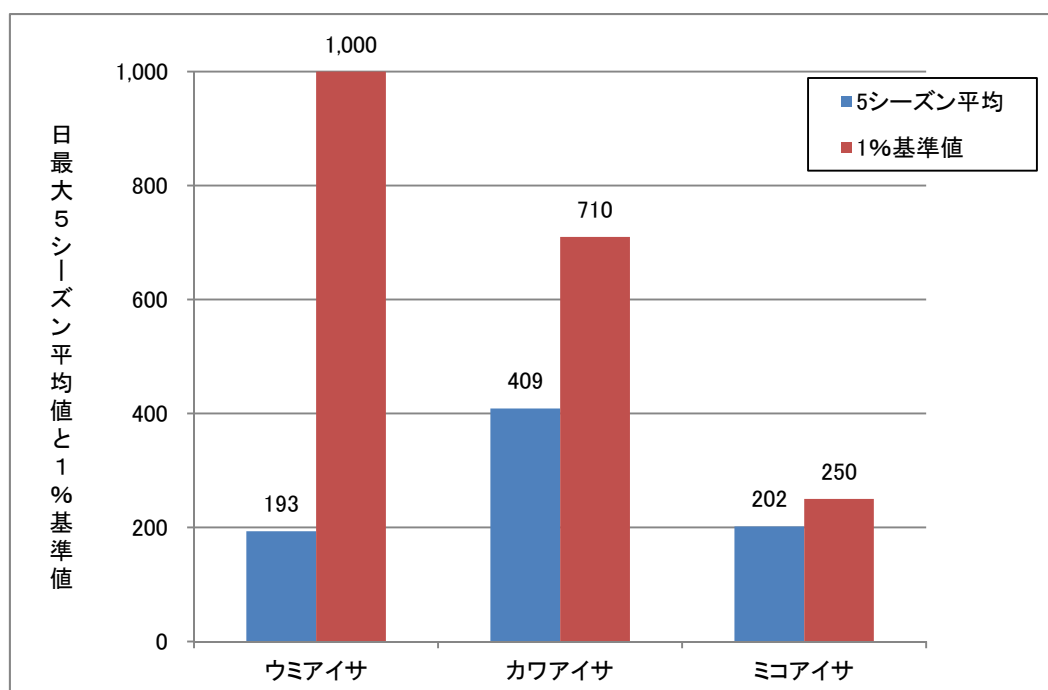


図 2-1-4-12 オカヨシガモ、シマアジにおける日最大 5 シーズン平均値と 1%基準値



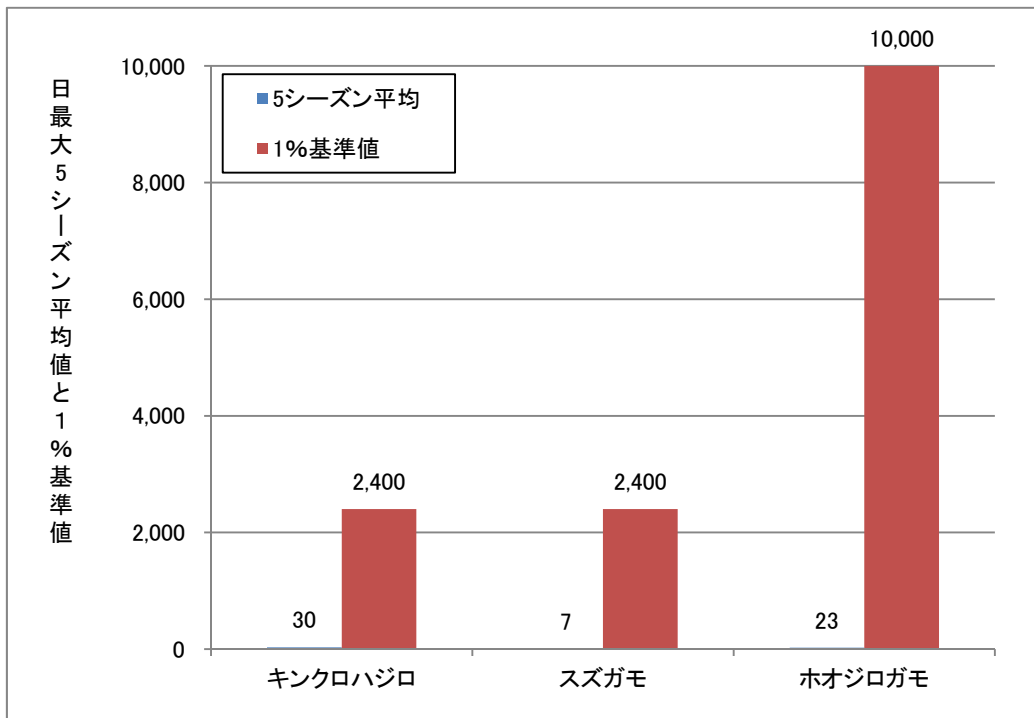


図 2-1-4-13 オカヨシガモ、シマアジにおける日最大 5 シーズン平均値と 1%基準値

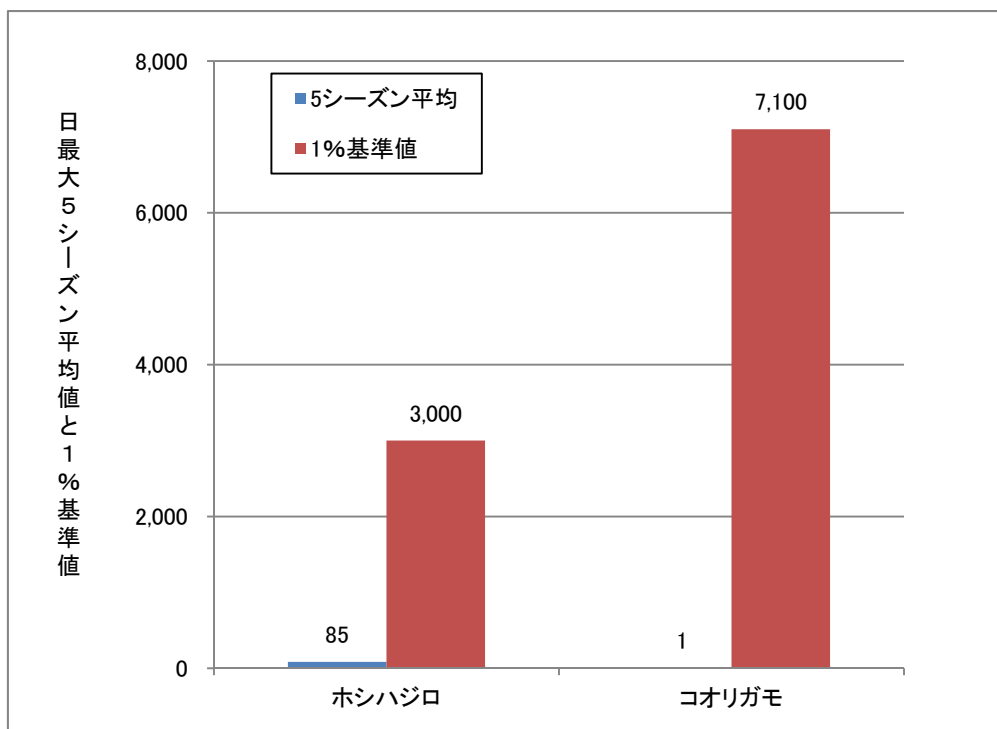


図 2-1-4-14 オカヨシガモ、シマアジにおける日最大 5 シーズン平均値と 1%基準値